

第7回 京大おもろトークアートな京大を目指して

<第1部> 対談



山極 壽一

京都大学 総長



内丸 幸喜

文化庁 文化部長

1987年3月京都大学工学部卒、科学技術庁（現文科省）入庁。文科省で科学技術、大学、教育、文化、スポーツ関連を担当したほか、通産省（現経産省）で通商政策、郵政省（現総務省）で地域情報化、内閣府で基本政策等も担当。2016年4月より現職。また、1990年代半ばよりライフワークとして文化芸術と科学技術の融合を目指した政策立案、研究開発、人材育成等を推進。

<第2部> パネルディスカッション

芸術と毒の 微妙な関係

松尾 恵



ヴォイスギャラリー代表

1957年神戸生まれ。1980年京都市立芸術大学卒業。インスタレーションなど発表活動を経て、1986年河原町今出川にヴォイスギャラリー開設（現 MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w・下京区）。主として、現代美術の若手作家を紹介。京都芸術センターや PARASOPHIA などの文化芸術事業にも関わる。大学講師、執筆のほか、2008年より吉岡洋と「有毒女子通信」発行。

小松 和彦



国際日本文化研究センター所長

国際日本文化研究センター所長。専門は、民俗学・文化人類学。1947年東京都生まれ。東京都立大学大学院社会科学部研究科博士課程単位取得退学。信州大学助教授、大阪大学文学部助教授及び教授を経て、1997年より国際日本文化研究センター教授。その後 2010年より同センター副所長を兼務、2012年4月より現職。2013年紫綬褒章受章。2016年文化功労者。

吉岡 洋



京都大学
こころの未来研究センター特定教授

美学・芸術学とメディア理論をバックグラウンドにして、現代の芸術やメディアアートの現場と関わりながら、文章を書き、出版物や美術展示の企画をし、作品制作にも関わってきた。著書に「情報と生命」「〈思想〉の現在形」など。「京都ビエンナーレ 2003」、「岐阜おおがきビエンナーレ 2006」総合ディレクター。文化庁世界メディア芸術コンベンション座長。

モデレーター

吉川 左紀子

京都大学
こころの未来研究センター長 教授



司会

亀井 謙一郎

京都大学
物質-細胞統合システム拠点 特定准教授



幕間のインプロビゼーション演奏

Duo Nagai Weitzel

永井千恵・Joshua Weitzel



締めめの挨拶

土佐 尚子

京都大学
アートサイエンスユニット長 教授
2016年度文化庁文化交流使



平成29年3月21日(火) 午後5時～7時
京都大学 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール I, II

対象：どなたでも参加できます 参加費：無料 定員：100名(申し込みによる先着順)
お申し込み：request-kyodaiart@media.kyoto-u.ac.jpへ お名前、ご所属、連絡先 e-mail、電話番号を記入してお申し込みください。
主催：京都大学 共催：京都大学 こころの未来研究センター、京都大学 アートサイエンスユニット
問い合わせ先：request-kyodaiart@media.kyoto-u.ac.jp 電話 075-753-9081 (平日 午前 10:00～午後 5:00)

「百鬼ノ図」(国際日本文化研究センター所蔵)

長い歴史と文化を持つ京都は、同時に常に最先端の動きを取り入れてきた町でもあります。アートはその伝統とモダンをつなぎ、新しい動きを創る力を持っています。いま京都大学はアートの発想を取り入れて、新しく生まれ変わろうとしています。京大おもろトークに参加して、その試みを目撃してみませんか？ 第7回目のテーマは「芸術と毒の微妙な関係」です。